「若手の会」のページ

若手の会第５回リトリート開催報告

JASTS 若手の会実行委員　前川　文子

（福井大学医学部　耳鼻咽喉科・頭頸部外科 / 脳形態機能学）

はじめに

2021 年 11 月に日本味と匂学会の若手の会（JASTS 若手の会）が発足して以来、5 回目となる合宿形式の交流会を開催いたしました。本会では、年に一度の大会に加え、若手会員・学生会員同士が研究について議論し、情報交換する機会を提供しています。アカデミア、企業、医療など、異なる立場で化学感覚研究を行う若手研究者が交流を深め、研究上の相談やキャリアパスについても気軽に話せる場をつくることを目指しています。

本稿では、第 5 回リトリートの開催の様子と各プログラムの様子をご報告いたします。



若手の会第 5 回リトリート参加者

若手の会第５回リトリート開催報告

2026 年 9 月 8 日から 9 日にかけて、岩手県盛岡市の盛岡つなぎ温泉・湯守ホテル大観にて、JASTS 若手の会第 5 回リトリートを開催しました。会場は盛岡駅から路線バスで約 30 分の距離にあり、宿泊施設と会議室を利用した 1 泊 2 日の合宿形式で実施しました。

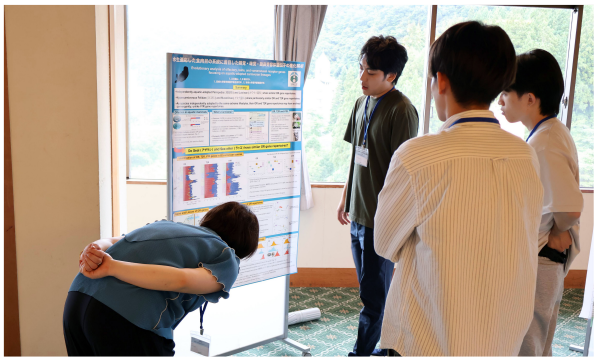
今回は招待講演として東京大学大学院理学系研究科の竹内春樹先生をお迎えし、実行委員を含めて計 28 名が参加しました。今年度もアカデミア、学生、企業研究者、医療従事者など、多彩なバックグラウンドをもつ方々が参加され、本会の趣旨どおりの会となりました。また、今回は過去よりも初参加、学生参加が多く、活気あふれる雰囲気となりました。

今年のプログラムは、フラッシュトークと自己紹介、ポスターセッション、竹内先生の招待講演、夕食と交流会、ポスター自由討論と懇談会を中心に構成しました。翌朝にも自由討論の時間を設け、最後にポスター賞の発表と総括を行いました。

初日は、開会挨拶に続いてフラッシュトークと自己紹介を行いました。ポスターセッションに先立って、それぞれの研究内容や参加者について知る時間を設けました。自己紹介ではポスター発表や本会ではわからないようなお互いの人柄を知るきっかけになり、その後の議論に大いに役立ちました。

ポスターセッションでは、発表者を A･B の 2 グループに分け、それぞれ 60 分間の発表時間を設けました。発表テーマは、味覚・嗅覚受容体の機能や神経回路の形成、動物の行動、匂いによる記憶想起、食品の官能評価、臨床研究など、多岐にわたりました。異なる分野や立場の研究について知りながら、自身の研究について意見を交わす場となるよう、討論の時間を設けました。最初はやや緊張した面持ちだった参加者の皆さんですが、自己紹介の助けもあり、すぐに自由で活気あふれるポスター討論となりました。

これまでの参加者アンケートでは、ポスターセッションの時間をもう少し長くしてほしいというご意見をいただいていました。そこで、今年は夕食後と翌朝にも自由に討論できる環境を重視して、会場となる宿泊施設を選定しました。本大会での発表に向けた意見交換の機会としてもリトリートを活用していただけるよう、プログラムを構成しました。



ポスターセッション

ポスターセッションに続いて、竹内春樹先生に「C57BL/6 マウスの嗅覚組織切片を作り続けて 20 年――今、思うこと」と題してご講演いただきました。竹内先生には、これまでの研究や、現在、教授として研究室を運営する中で考えておられることをお話しいただきました。ご自身の経験や先人の言葉を交えながら、「何のために研究するのか」「どのように研究を進めていく

のか」に向き合うご講演を通して、研究者として生きていくことの一端に触れることができました。立場や背景は異なっていても、研究を志す私たちにとって非常に示唆に富んだ内容であり、私自身、これから研究を継続していくために必要なことを改めて考える機会となりました。大変興味深いご講演で、1時間があっという間に感じられました。参加者アンケートでも、最も好評なセッションでした。



竹内春樹先生の招待講演

講演後は全体で写真撮影を行い、夕食と交流会へと移りました。夕食はビュッフェ形式で行いました。夕食・交流会では、食事をともにしながら、所属や立場の異なる参加者同士で交流を深めました。研究の話に加え、研究に取り組む中で感じる楽しさや難しさ、今後のキャリアについても話題が広がりました。大学や企業の研究者、学生など、それぞれの環境で研究に携わる方々のお話を伺い、研究内容だけでなく、その背景にある日常や考え方にも触れることができました。夕食後は、21時から23時までポスター自由討論と懇談会の時間を設けました。宿泊を伴うリトリートの時間を活用し、午後のセッションに続いてポスターを前に研究について話し、お互いの交流を深める場としました。他にもキャリアの話をはじめ、年齢や所属を超えて色々な情報交換ができ、交友関係を広げる場になったようです。


夕食と交流会

今回はつなぎ温泉での開催ということもあり、温泉も楽しむことができました。湯の花が浮かぶ源泉かけ流しの湯や、豪華な庭園風呂もあり、ゆっくりと湯に浸かって日々の疲れを癒しました。大都市に限らず日本各地で開催される味と匂学会本会に合わせて行うこの若手リトリートでは、研究交流に加え、その土地ならではの魅力を味わえることも、参加する楽しみの一つだと考えます。

2日目は朝食後に自由討論を行い、ポスターの片付けを終えた後、ポスター賞の発表と総括、閉会を行いました。昨年度に引き続きポスター賞を設け、初日の投票結果をもとに受賞者を発表しました。ポスター発表された方から優秀賞4名を選出し、受賞者には後日、賞状をお送りしました。

今回のリトリートにも、多彩なバックグラウンドをもつ方々が参加されました。寝食を共にする中で交流が深まり、活発な議論が交わされました。今回は初参加の方が多く、新たな出会いとともに、会に新鮮な雰囲気が生まれました。また、複数回参加されている方々にとっては、これまでのつながりをさらに深める機会にもなりました。今後も、新たな出会いと継続的な交流の両方を大切にしながら、リトリートを開催してまいります。

おわりに

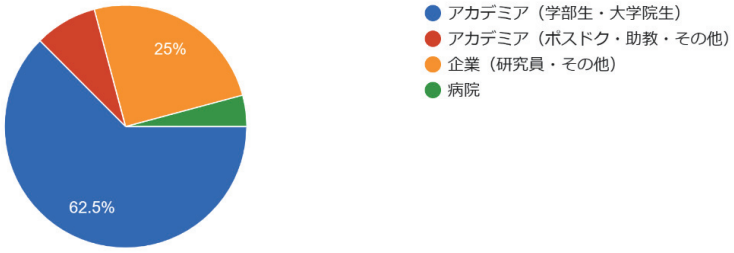
第5回となる今回は、これまでのリトリートで大切にしてきた気軽に話しやすい雰囲気を受け継ぎ、参加者が研究について議論し、参加者同士を知る時間を持てるようプログラムを構成しました。

終了後の参加者アンケートでは、リトリート全体の内容に関する質問でおよそ95%の方に満足・やや満足の評価をいただきました。ポスターセッションの時間を多く取れるようにプログラムを組んでいますが、まだポスターセッションに時間を割いてほしいという意見が多いのが現状です。

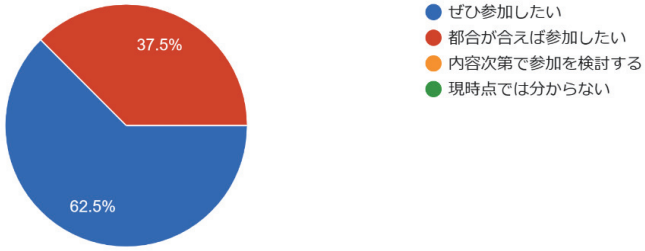
今後も参加者の皆様からいただくご意見を参考に、研究交流の機会としてリトリートをより充実したものにしていきたいと考えております。

最後に、若手の会リトリートの開催にあたり、ご支援をいただきました日本味と匂学会と運営委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、ご講演いただいた竹内春樹先生、ご参加くださった皆様に深く感謝いたします。今後も多くの若手会員・学生会員の皆様のご参加をお待ちしております。正会員の皆様におかれましては、研究室所属の学生や若手研究者に若手の会の活動をご周知いただけましたら幸いです。

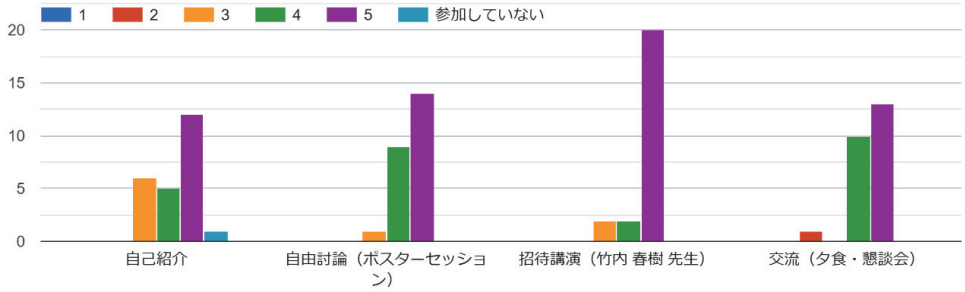
参加者の内訳



次回参加の希望



各セッションの満足度



参加者からの感想（抜粋）

・ポスターセッションで、竹内先生をはじめとするさまざまな方とディスカッションをすることができ、今後の課題や研究の展開について見通しを得ることができた。
・企業の方や博士課程の先輩と同じ部屋だったこともあり、キャリアの話やサイエンスの話に花を咲かせることができた。これは普段のラボの生活からは出来ない貴重な経験であり、修士課程のうちに聞くことができて非常に有意義だった。
・社内には味覚・嗅覚に精通した研究者が少ないため、本会は非常に貴重な機会となっています。日頃抱えている悩みを相談し、新たな視点や考えを得ることができ、大変有意義な時間となりました。
・今回初めて若手の会に参加しましたが、ポスターセッション、招待講演、夜の懇親会、どれも非常に濃密かつ刺激的な議論が行われていたと思います。それぞれの研究分野についても、分子・神経・進化・行動・工学分野など多岐に渡り、日頃のラボ生活では得られない知見を多く得ることができました。
・今回は前回に比べ学生の参加が多く、本会では意外とできない同年代の交流が活発に行えたので良かった。また、夕食後の懇談会もあったことで交流の時間が長く取れて良かった。